

よりよいかかわりの手がかりに！

気にかかる子どもに関する ワークシート集



このワークシート集は、
子どもをとらえ直したり、
自分を振り返ったりすることをおして、
気にかかる子どもへのかかわりや対応をよりよくしていくためのものです。
23種類のシートの中から、
「案内板」を参考にして、
できそうなもの・役に立ちそうなものを選んでください。

一つのシートに要する時間は、10分～20分程度です。

各シートは、一人で取り組めるようになっています。
使い方を工夫して校内研修などで活用することもできます。

平成18年3月
島根県立松江教育センター

案内板

気にかかっている子どもへのかかわりや対応をよりよくしたい！！

シートを選びましょう

一覧表を見て...
巻末へ

今の気持ちから...

シートを見て...

その子をどう理解していいかわからない...
その子のよくない点ばかりが目につく...
その子の見方が固定しがちだ...

A

子ども自身に目を向けて...
子どもをとらえ直す

その子へのかかわりに迷っている...
自分の対応に自信がもてない...
どう対応していいかわからない...

B

子どもへのかかわりや気持ちに目を向けて...
子どもへのかかわりや気持ちを
整理したり確認したりする

時間があるので、
自分を振り返ってみたい...
自分について考えてみたい...

C

自分自身に目を向けて...
自分自身を見つめる

B へ

C へ

A

シート番号	シート名	ねらい
A - 1	プラスを探す	できている点・よくなった点を指導に生かすために
A - 2	気にかかる言動が見られない時	気にかかる言動が起こらない時を増やす手がかりを得るために
A - 3	二つの見方で	肯定的な見方をすることで指導をよりよくしていくために
A - 4	得・よいこと	気にかかる言動が続かないようにする手がかりを得るために
A - 5	言い分・言い訳	そのような言動をせざるを得ない内面の理解のために
A - 6	困っていること	先生の困っている感じを小さくするために
A - 7	できない理由	努力不足以外の理由を考えていくために
A - 8	さまざまな場面での姿	子どもの全体的な姿をとらえるために
A - 9	言ってほしい言葉	子どもにフィットした言葉かけを磨くために

* 気にかかる子どもを一人思い浮かべてください

その子のプラスを探してみましょ

ある子どもが気にかかり始めると、よくない点ばかりが目についてしまいがちです。私達はその子によくなってほしいと願うからこそなのですが…。このシートでは、4つの視点から子どものプラスを探してみます。ちょっとしたことにも意識して目を向けてみましょう。



その子どもが、今できていることを探してみましょ。
他の子どもには当たり前なことでもOKです。

例 こちらから挨拶した時、挨拶を返す

*

*

*

その子どもが今までによくがんばっていたことを思い出してみましょ。

例 運動会の時、係の活動を一生懸命やっていた

*

*

*

その子どものよいところだと思われることを見つけてみましょ。
例 友達思いのところがある

*

*

*

その子どもが以前よりよくなったと思われること・成長したと思われることを探してみましょ。

例 表情が少し明るくなった

*

*

*

記入してみてどんな感想をもちましたか。

上で見つけた子どものプラスについて、本人や保護者に伝えてみたいことはありますか。



「今できていること」「よい点」「小さな変化」などのプラスの面を誰かが認めて強化していくと、その子の気持ち元気がなり、他の面にもよい影響が出ます。「ここがいいね」「よくやってる」「よくなってるよ」と、言葉や表情で伝えてみてください。

* 気にかかる言動が継続的に多くの場面で見られる子どもを思い浮かべてください

気にかかる言動が見られない時をさがしましょう

気にかかる言動が見られる場合には、その見られる時のことに意識が向きがちになります。

そこで、このシートではあえて気にかかる言動が見られない時に注目してみましょう。



1 気にかかっているのは、その子どものどんな言動ですか。一つ挙げてください

2 「1」の言動が見られない時がありますか。それは、どんな時ですか。

3 その言動が見られないのは、どうしてでしょうか。その時のその子の気持ちや周囲の状況、あなたのかかわりなどを思い出しながら考えてみてください。



気にかかる言動が見られない時は、かかわりや対応がうまくいっている時であり、状況がよくなっていく手がかりが隠れている時ととらえて着目したらどうでしょう。

また、肯定的な声かけをしていくチャンスだと考えてみてはいかがでしょうか。

*気にかかる子どもを一人思い浮かべてください

その子の姿を二つの見方で考えてみましょう

その子が見せる姿を、「マイナスの面として見るとどうなるか・否定的な見方をするとどうなるか」、「プラスの面として見るとどうなるか・肯定的な見方をするとどうなるか」考えてみましょう。「プラスの面・肯定的な見方」の欄だけ書いてもかまいません。



マイナスの面として見ると (否定的な見方をすると)	その子の姿	プラスの面として見ると (肯定的な見方をすると)
優柔不断で時間がかかり過ぎる	物事がなかなか決められない	思慮深く、慎重である
だらしない	整理整頓をしようとしらない	・他のことが気がかりで整理整頓にまで気持ちが回らない ・おおらかさがある



気にかかる子どもの姿は、マイナスのもの、直していかなければならないものもありますが、見方によっては、プラスの側面もあったり、今は仕方ないことであったりします。

「あの子にとっていいところでもある...」「やがては変わっていくのでは...」と教員が思っていて、必要に応じてその子に伝えていくことは、その子との関係をよいものにしたり、その子が自分を肯定的に見ることになったりするのではないのでしょうか。

* 教員から見てプラスに思えない言動をくり返す子どもを思い浮かべてください

その子にとっての「得」や「よいこと」を見つけてみましょう

その子が、ある言動をくり返すのは、そうすることがその子どもにとって何らかの「得」になっていたり、その子にとって「よいこと」があったりするからだと考えられることもできます。その「得」や「よいこと」を見つけてみましょう。



1 その子がくり返す、教員から見てプラスに思えない言動はどんなことですか。

2 その言動が出てくると、周囲でどんなことが起きますか。

学級では...、教員は...、周囲の子どもは...、保護者は...、など

--	--	--

3 その子は、その言動をすることや周囲で起きることによってどんな気持ちになると思いますか。

「叱られていや」などの一般的な気持ちだけではなく、その子にとってなにか「得」をしたり、「よいこと」が起きたり、「よい思い」をしたりしていることはないか考えてみてください。



「どんなに叱られても見捨てられていない感じがするからいい」と言った子どもがいます。その子にとっては、叱られることも見捨てられていないことを確認できる「得」だったのです。

気にかかっている言動そのものをやめさせることに力点を置くのではなく、その言動をくり返してしまうその子の気持ち（例えば、友だちから承認してもらえらる・先生とのつながりが確認できる・いらいら感が解消できる、など）を他の活動で満たしていくと、その言動を続ける必要がなくなってくる。

その子どもにとって「得」「よいこと」を、他の機会や場で感じさせることを考えてみましょう。

*気にかかる子どもを一人思い浮かべてください

その子の言い分や言い訳を考えてみよう

教員からみて気にかかる言動も、その子にしてみれば何らかの理由があり、そのことについて言い分や言い訳もあるのではないのでしょうか。



- 1 あなたが、その子に代わって、言い分や言い訳を書いてみてください。

- 2 言い分や言い訳を書いてみて、気づいたこと、思ったことがありますか。



言い分や言い訳を考えてみることは、決して気にかかるその言動を容認することではありません。そのような言動をせざるを得ないその子の内面をその子の立場になって理解しようとするのが大切だと考えています。

そのような理解はかわりの手がかりになるとともに、気にかかる言動そのものへの指導にも生きていくではないのでしょうか。

*気にかかる子どもを一人思い浮かべてください

困っていることを考えてみましょう

1 気にかかる子どもに関して、
あなたが困っていることを書いて
みましょう。

2 では、気にかかる子ども自身が
困っていることには、どんなことが
あるでしょう。

3 書いてみて、気づいたこと、思ったことがありますか。



気にかかる子どもに関して、先生方が困ったなと感じられることはいろいろあることと思います。

それと同時に、意識しているかどうかは別として、子ども自身が困っていることもいろいろとあるのではないのでしょうか。

子どもが困っていることに目を向けることが、かかわりのヒントになっていくのかもしれない。

* 気にかかる子どもを一人思い浮かべてください

できない理由を考えてみましょう

“本人の努力不足でできない”と思える行動や、“今までできていたのにできなくなっている”というような行動は、もしかしたらその子にも意識されていない理由があるかもしれません。“本人は努力しているのにできないとしたらなぜか”“できなくなっているのはなぜか”という視点で考えてみましょう。



【気にかかる行動】

【考えられる理由】

例えば

終礼時の話を何度も聞き返す

- ・ 周囲のことが気になり集中して話が聞けない
- ・ 話される言葉の意味や内容が理解できない
- ・ たくさんの話の内容が覚えていられない

漢字練習を嫌がり、「面倒くさい」と言う

- ・ 何度書いても覚えられないので、練習することがつらくなっている
- ・ たくさん書く枠があるとそれを見ただけでいやになる
- ・ どことなく体調がよくない
- ・ 友達とうまくいっていないくて気持ちが落ち着かない

Example box for behavior.



Example box for reasons.

Example box for behavior.



Example box for reasons.

今後に生かしたいことがありましたか。(もう少し調べてみよう・配慮してみよう など)

Response box for reflection.



子どもの行動には、教員のこれまでの経験や知識だけでは理解できない理由があったり、予想もできない気持ちや状況が隠れていることがあります。本人は努力しようとしているのに、なかなか行動が改善されない場合は、特別支援教育の視点から見てみるのが有効ですし、気持ちや状況を改めて調べてみることも必要です。一見ただけではわかりにくい子どもの行動の理由をいろいろな視点から考えてみませんか。

* 気にかかる子どもを一人思い浮かべてください

言ってほしい言葉・言ってほしくない言葉を考えてみましょう

あなたが気にかかっている、その子になったつもりで書いてみてください。書けるところだけでかまいません。

1 私は、先生に _____ と言ってほしくないなあ。

2 私は、先生に _____ と言ってほしくないなあ。

3 私は、先生に _____ と言ってほしくないなあ。

4 私は、先生に _____ と言ってほしいなあ。

5 私は、先生に _____ と言ってほしいなあ。

6 私が _____ した時、 _____ と言ってほしいなあ。

7 私が _____ した時、 _____ と言ってほしいなあ。



その子にとって、先生から言われると、うれしい言葉・エネルギーになる言葉があると思います。その子がほしいと思っている言葉は、その子が必要とし、その子の心に響く言葉なのではないでしょうか。

逆に、言ってほしくない言葉は、子どもとの関係をそこねてしまったり、子どもに否定的に受け取られたりすることもあると思います。

とは言え、子どもが言ってほしくない言葉でも言わなければならない場合もあります。その時は、どんな言葉や言い方がその子に届くか、望ましい行動を生み出すかを考えながら言いたいものです。

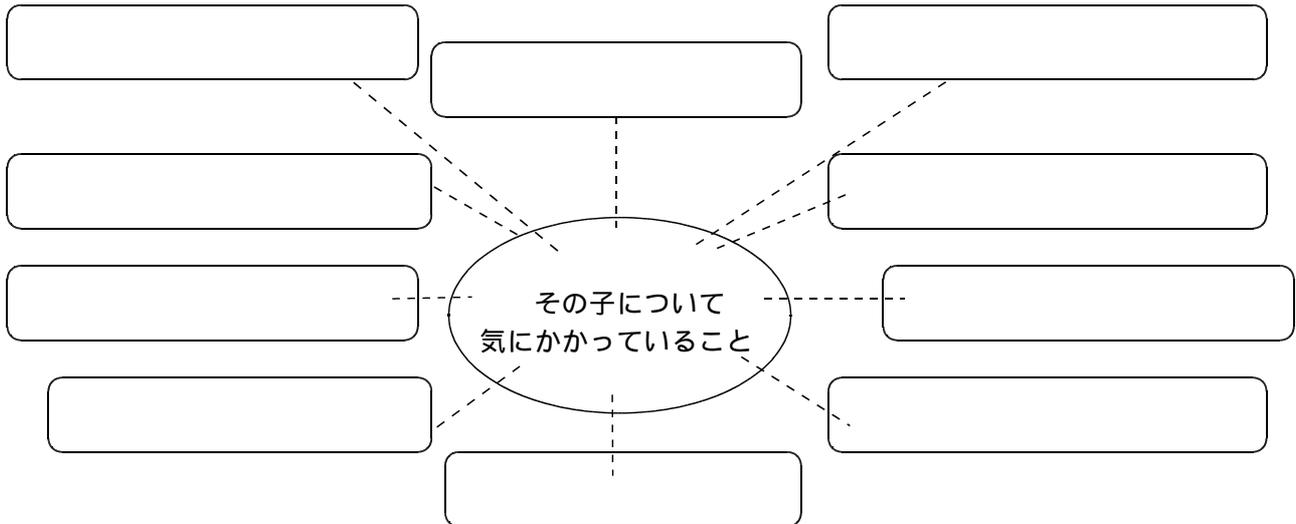
* 気にかかる子どもを一人思い浮かべてください

その子について気にかかっていることを整理してみましょう

何がどのように気にかかっているのか、特に気にかかっているのは何かなどが整理できると、かかわりの糸口が見えてくることがあります。その子について気にかかっていることを整理してみましょう。



- 1 その子について、あなたはどのようなことが気にかかっているのでしょうか。
気にかかっていることを一つ一つ書き出してみましょう。すべてを埋めることはありません。



書いている中で、その子についてプラスの要素が思い浮かんだら、ここに！

- 2 書き出した気にかかっていることをグルーピングしてみましょう。
グルーピングできたら、そのグループをまとめるような名前を につけてみましょう。

*
*
*

*
*
*

*
*
*

*
*
*

- 3 グルーピングしてみて、今、どのようなことを感じていますか。

- 4 グループしたものを、取り組んでみよう（取り組む必要がある）と思われる順に並べてみましょう。

--	--	--	--

順位 について、今、どのようにお考えですか。

今、感じていることや に関連してこれまでやってきたことがあれば書きとめておきましょう。

よかったら、順位が下位のグループについても、考えてみましょう。

について

について

について

- 5 気にかかることを整理してみて、今どのような感想をもちましたか。



人は誰も、気にかかることがたくさんあると、一体何から考えたらいいのか、どう取り組めばいいのかかわからなくなり、疲労感や無力感を募らせたりすることがあります。

気にかかることがたくさんあると思っていたのに、書き上げて整理してみると意外に少なかったり、どのことから取り組むとよいかが見えてきたりしたのではないのでしょうか。

あれもこれも一度によくしようとするのではなく、今、できそうなことや優先的に考えたいことから一つ一つ取り組んでいくことが大切ではないのでしょうか。

* 気にかかる子どもを一人思い浮かべてみてください

その子に対してのあなたの願いを整理してみましょう

あなた自身のその子への願いが、実際のその子へのかかわりに大きく影響していることも少なくありません。あなた自身、その子にどのような願いをもっているのかを明らかにしてみましょう。



- 1 あなたは、その子に対してどのようなであってほしいと願っているのでしょうか。書き出してみましょう。

- 2 1で挙げたあなたの願いの中で、今、その子の願いでもあると思われるものはどれでしょうか。

- 3 その願いを叶えていくために、その子とどのようなことがやっていけると思えますか。(例えば、どうしたら叶えられるか、どんなことができるかを一緒に考える など)



あなたには、気にかかるその子に対してもっている「～～になって欲しい」「～になるようにしてやりたい」「～年生だから、今、～できるようにしたい」などとの願いがあると思います。

その願いが、あなたの一方的なものではなく、その子自身が願っていることでもあるならば、その願いを叶えるためにどうしていけばよいかをその子と一緒に考え、どんなに小さな成果でも喜び合ったり、できたことを確かめ合ったりすることで願いに近づいていくことができるのではないのでしょうか。

* 気にかかる子どもを一人思い浮かべてください

これまでやってきたことをまとめてみましょう

1 これまでもその子の気にかかることについて、いろいろな試みをしてきたことと思います。どんなに小さなことでも、あなたがこれまでやってきたことを、書き上げてみましょう。

一つの気にかかることに対して、やってきたことが複数あるかもしれませんが、いくつかやってきた中で、一つのことがわかったということになってもかまいません。

気になること (具体的に)	これまで やってきたこと	やってみて わかったこと
例 文字が枠内に 書けない	点線で下書きをしたり、 見本を側に置いたりする	この方法だと、書くことをいやがらなくな った

2 今、どのような感想をおもちですか。



まとめる前から、“何もやってないなあ”とか“ちっとも効果が見られないなあ”などと自分自身に対して、否定的な気持ちになった方もあるかもしれません。逆に“意外にやってたなあ”とか“よくやってるじゃない”と思えたり、“このことをもう少し続けてみよう”と再確認したりした方もあるかもしれません。

現実をしっかり目を向け、良いも悪いも含めて、今を評価したり、点検し直したりしていくことは、次へ歩みを進めるためには不可欠なことです。その子に対してよりよいかわりをしたいと強く願っているあなただからこそできることでもあります。

* 気にかかっている子どもを一人思い浮かべてください

他の人に知ってほしいこと・わかってほしいことを書いてみましょう

- 1 気にかかる子どもへの対応について、あなたが他の人（その子自身・周囲の子ども・その子の保護者・職場の同僚など）に、知ってほしい・わかってほしいと思うことはどのようなことですか。

（例1）私は、保護者に、本人は認めてもらいたいために無理していることを知ってほしい。

（例2）私は、同僚に、本人は決して怠けているのではないことを知って欲しい、わかってほしい。

私は _____ に、 _____ を 知ってほしい、
わかってほしい。

- 2 書き出したことのうち、自分であるいは誰かの手助けをもらって伝えられそうなことはありませんか。あれば、“いつごろ” “どのように” 伝えられそうか書いてみましょう。

いつごろ

どのように



日々、あなたとしては周囲の人にもっと知ってほしい、わかってほしいと覚えることがあるのではないのでしょうか。その子のことをきちんと理解してほしかったり、あなたの努力や頑張りをわかってほしかったりすることもあるでしょう。

いつかその思いがわかってもらえて、一緒にかかわっていけるといいですね。

周囲の人々の中に一緒に考えたり、わかってもらうための手助けを頼んだりできる人がいないか、今一度考え、孤軍奮闘しなくてよいようにしましょう。

* 気にかかる子どもを一人思い浮かべてください

しないようにしていることを挙げてみましょう

- 1 あなたが気にかかるその子に対して、こんなことはしないようにしよう、言わないようにしようと心がけていることを挙げてみましょう。

- 2 そうすることでよかったこと、いいだろうなと思えることは、どんなことですか。



何をしないようにしているか、何を言わないようにしているかという視点は、消極的なように思えるかもしれませんが、そのことが有効だとの判断から選択している意図的なかわりであると考えます。

その子の状況や教員の言動がもたらす影響を踏まえて、あえてしないようにしていること、言わないようにしていることは、なかなかひとにわかってもらえないことですが、その意義は大きいと考えています。

* 気にかかる子どもを一人思い浮かべてください

うまくかかわれた場면을思い出してみましよう

- 1 気にかかる子どもにかかわってきた中で、ほんの少しでも、あなたの言葉がその子に伝わったと感じたり、その子の表情がよくなったりしたことはありませんか。そんな“うまくかかわれた場面”を思い出して書いてみましょう。一つでもかまいません。

- 2 うまくいったかわりには、何らかの要因があったと思われませんが、あなたのかかわりの何がよかったと思いますか。または、今後活かすとしたら、どのような点ですか。



何気なくしているかわりや対応の中に、その子にとって心地よかったり、よい行動を生み出したりする何かがあったに違いありません。その何かの積み重ねが子どもとのよい関係をつくり、子どもの成長につながるのだと思います。

* 気にかかっている子どもを一人思い浮かべてください

自分の努力を認めてみましょう

「ひとは気づいていないかもしれない努力」や「成果としてはっきりとは現れていない努力」を自分で認めてみませんか。



- 1 あなたが自分で認めたいと思う、その子へのかかわりにおいて努力していることや心がけていることを書き出してみましょう。

- 2 書き出したことについて、自分の努力を認める言葉を自分にかけてみましょう。



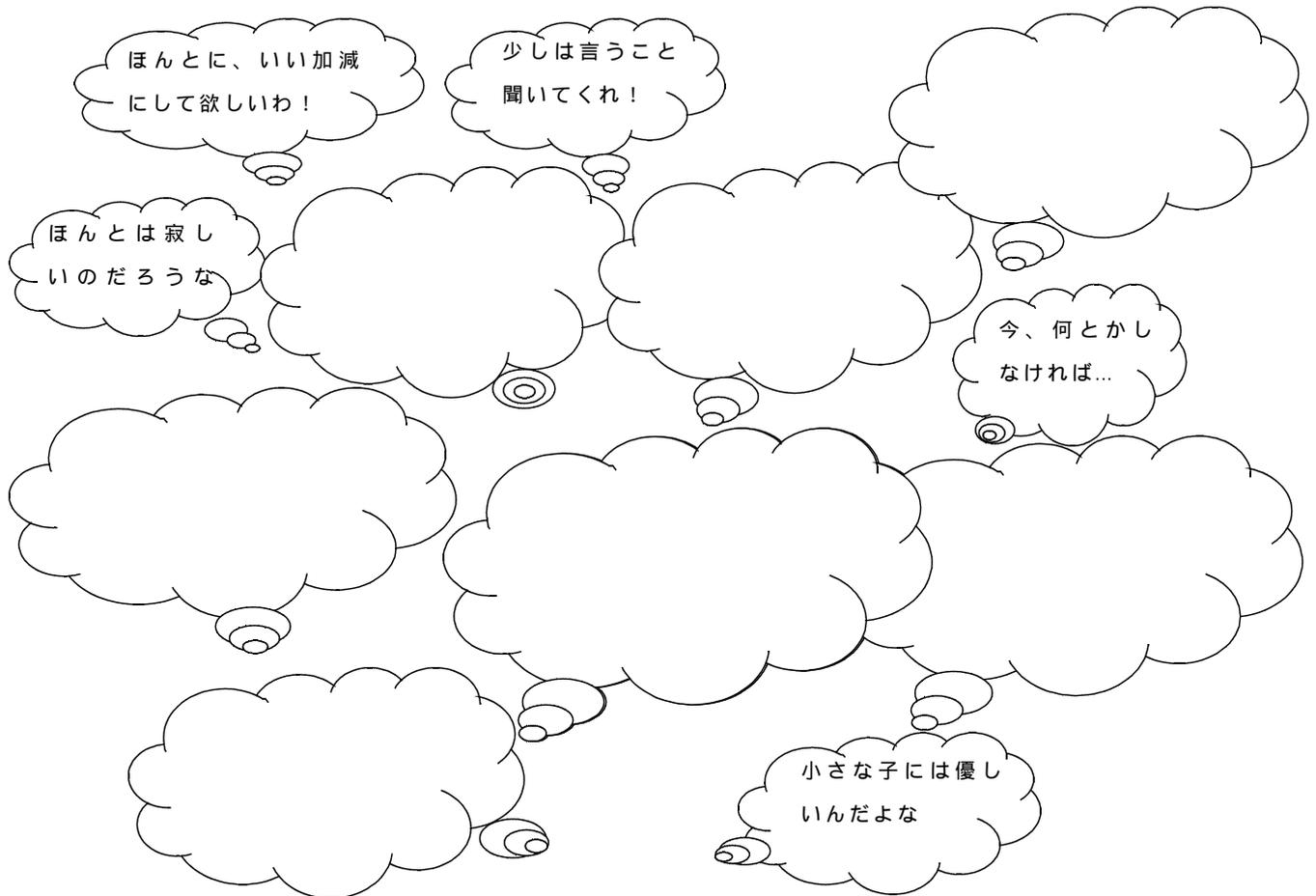
私たちがしている努力には、ひとが認めてくれるものや成果として現れているものもあれば、ひとは気づいていないものや成果としては現れていないものもあります。気にかかる子どもへのかかわりにおける努力となると、ひと知れずしているもの、成果としては現れにくいものもたくさんあるのではないのでしょうか。

そんな努力を認めていくことで、次のかかわりへのエネルギーが湧いてくるといいですね。

* 気にかかる子どもを一人思い浮かべてください

その子について浮かんでくる気持ちを書き出してみましょ

- 1 気にかかる子どもについて、あなたが日々感じているさまざまな気持ちについて考えましょ。否定的な気持ちも肯定的な気持ちも、できるだけたくさん書き出してみましょ。



- 2 書き出してみても、感じたこと、気づいたことはありませんか。



その子に対する気持ちは、決して一つではありません。

かわるその時々で変わることもあれば、ずっと続いていくものもあるでしょう。改めて書き出してみることでなんといろいろな気持ちがあることかと驚かれた方もあるかもしれません。

書き出してみることは、その気持ちを心から離し、冷静に眺めてみることにもなります。

その子に対するプラスの気持ちや、その子自身の思いを汲み取ったものがあれば、その気持ちを大切にしてみてください。その子へのかかわりに変化をもたらすかもしれません。

* かかわりや対応を具体的に考えてみましょう

誰が、どのようにやっていけばよいか考えてみましょう

気にかかるその子へのかかわりや対応を具体的に考えてみましょう。



- 1 これからのその子へのかかわりとして、どのようなことをしていくとよいと思われますか。「自分でできそうなこと」「他の人の協力がほしいこと」「しばらく静観する方がよいと思われること」に分け、表にまとめてみましょう。

誰が・誰に	具体的にどのようなことができそう？ 具体的にどのようなことをお願いしたい？
あなたが自分で	
学校の他の先生方に	
養護教諭の先生に	
周りの子どもたちに	
家庭や保護者に	
スクールカウンセラーや 専門家に	
しばらく静観	

- 2 今、どのようなことを感じていますか。



あなた自身はもちろん周囲の人々を含めて、その子へのかかわりや対応について具体的に考えてみることで、これからどのようにかかわっていけばよいかイメージできたり、ぼんやり思っていたことが明確になったり、確認できたりしたのではないのでしょうか。

一人で抱え込まないで周囲の人々に協力を求めて、かかわりを続けていきたいものです。

* かかわりや対応を具体的に考えてみましょう

どのような場面で、どのようにかかわっていけるか考えてみましょう

気にかかるその子へのかかわりや対応を具体的に考えてみましょう。



- 1 これからのその子へのかかわりとして、どのような場面を生かして、どのようなかかわりができそうでしょうか。具体的なかかわりを考えてみましょう。

場 面	具体的にどのようなことができそう？ 具体的にどのようなことを意識しておきたいですか？
朝・終礼の時に	
授業時間に	
休み時間に	
日記や生活ノートで	
部活動や課外活動で	
学校行事の時に	
その他の生活時間に 掃除・給食・係活動など	

- 2 今、どのようなことを感じていますか。



多忙な学校生活の中で、気にかかってはいてもその子へなかなかかかわれない時もあることと思います。

まとまったかかわりができなくても、さまざまな生活場面において、どのようにかかわりたいかを意識しておくだけでも、かかわりの工夫がなされたり、さりげないかかわりが繋がったりするのではないのでしょうか。

* かかわりや対応を具体的に考えてみましょう

指導や面談をする前に考えや気持ちを整理してみましょう

忙しい日々ですが、特別な指導や面談をする前に、ちょっと時間をとって、自分の考えをまとめたり、気持ちを確かめたりしてみましょう。



どこで会いますか

どんなメンバーで会いますか（役割がありますか）

一番聞きたいこと・確かめたいことはどんなことですか

一番伝えたいことはどんなことですか

この指導や面談で大事にしたいことはどんなことですか
（どんな気持ちで会いますか、相手がより前向きになるにはどうしたらよいでしょうか）



大切な指導や面談だったのに、十分に話が聞けなかったりうまく話せなかったり。また、こちらはよかったつもりでも、相手にそう思ってもらえなかったり。そんなことを少なくしていくために、考えや気持ちを整理しておくことは有効です。時間の無い中でしていかなければならない指導や面談ですが、短時間でも、その前に、自分の考えや気持ちをまとめてみてください。

* 自分自身について考えてみましょう

大切にしてもらったことを思い出してみよう

～ うれしかったこと・ありがたかったこと ～

忙しさの中では、自分自身について考える時間をもつことはできかねます。少しの間、ご自身のことを考えてみましょう。

これまでさまざまな人と出会ってきたあなたです。あなたへの誰かのかかわりで“うれしかったなあ”“ありがたかったなあ”と感じられ、今でも心が温くなるような思い出はないでしょうか。



- 1 あなたが、そう思えたこと（時）を思い出して、書いてみましょう。
箇条書きでも、一つのことを詳しく書いてみてもかまいません。

私が（幼稚園・小学校・中学校・高校・大学・就職してから）の頃のことです。

- 2 書いたことを、もう一度読み返してみてください。そして今、どのような気持ちになっていますか。



その子（その人）をどのようにとらえるかは、自分自身の価値観や人生観、過去の経験、健康状態にも大きく影響されるといいます。その意味で、自分自身についての理解を深めることも大事になってきます。また、それは、子ども（保護者）理解を深めたり、かかわりを吟味したりする上での手がかりにもなります。

書いたことを、ゆっくり味わった後、少し時間をとって、誰かとその思い出を語り合ってみましょう。その時の“うれしさ”や“ありがたさ”が一層思い起こせたり、今の子どもへのかかわりについての視野を広げてくれたりするかもしれません。

*自分自身について考えてみましょう

よいかかわりができた経験を思い出してみましょう

- 1 これまでの経験の中で、あなたの言葉が子どもに伝わったと感じたり、その子どもの表情や態度がよくなっていったりしたことがあると思います。そんな、よいかかわりができた経験の中で印象に残っているものベスト3を思い出して書いてみましょう。

【惜しくもベスト3には入らなかったけれど捨てがたい経験・別の観点からの忘れがたい経験】

- 2 よいかかわりには、何らかの要因があったと思われませんが、どんな点がよかったですか。あるいは、その経験は、今日のあなたにとってどのように生きていると思いますか。



これらの経験は、自分を勇気づけてくれる貴重な財産だと思います。これらをもとに一つ一つ新たな経験が積み上がっていくことと思います。

*自分自身について考えてみましょう

教員としての自分を振り返ってみましょう

1 出だしの文に続けて、思い浮かんだことを書いてみましょう。すべてを埋めなくてもかまいません。

*私が、教員になろうと思ったのは、
_____からである。

*私は、教員になったら、
_____とっていた。

*教員になって私は、_____だ。

*私が、今 大切にしていることは、
_____である。

*私にとって、子どもは _____である。

*私にとって、教員は _____である。

*私にとって、学校は _____である。

2 書いてみて、いま、どのようなことが感じられていますか。



教員としての原点ともいえる思いや、子どもや学校に対する今の気持ち…。あわただしく過ぎていく毎日ですが、今一度、これらを振り返ったり、見つめたりして、教員としての自分の拠り所として大切にしていきたいものです。

* 自分自身について考えてみましょう

言ってもらってうれしかった言葉を思い出してみましょう

忙しさの中では、自分自身について考える時間をもつことはできかねます。少しの間、ご自身のことを考えてみましょう。



- 1 誰かに言ってもらって“うれしかったなあ”、“ありがたかったなあ”と感じられ、心に残っている言葉を書いてみましょう。

箇条書きでも、一つのことを詳しく書いてみてもかまいません。

私が（幼稚園・小学校・中学校・高校・大学・就職してから）の頃のことです。

- 2 どうしてその言葉が心に残っているのですか。



誰かからの一言がいつまでも自分を支えてくれることがあります。その言葉を思い出すと元気が出たり、頑張る気持ちが湧いてきたり、自分に自信がもてたりしませんか。

書いた言葉を、ゆっくり味わった後、少し時間をとって、誰かとその思い出を語り合ってみましょう。

その時の“うれしさ”や“ありがたさ”が一層思い起こせるでしょう。そのような言葉を、子どもにもかけていきたいものです。

＜ シート名・タイトル一覧 ＞

シート番号	シート名	タイトル
A - 1	プラスを探す	その子のプラスを探してみましよう
A - 2	気にかかる言動が見られない時	気にかかる言動が見られない時を探してみましよう
A - 3	二つの見方で	その子の姿を二つの見方で考えてしてみましよう
A - 4	得・よいこと	その子にとっての「得」や「よいこと」を見つけてしてみましよう
A - 5	言い分・言い訳	その子の言い分や言い訳を考えてしてみましよう
A - 6	困っていること	困っていることを考えてしてみましよう
A - 7	できない理由	できない理由を考えてしてみましよう
A - 8	さまざまな場面での姿	さまざまな場面でのその子の姿を書き出してみましよう
A - 9	言ってほしい言葉	言ってほしい言葉・言ってほしくない言葉を考えてしてみましよう
B - 1	気にかかっていることの整理	その子について気にかかっていることを整理してみましよう
B - 2	その子への願い	その子に対してのあなたの願いを整理してみましよう
B - 3	これまでやってきたこと	これまでやってきたことをまとめてみましよう
B - 4	他の人に知ってほしいこと	他の人に知ってほしいこと・わかってほしいことを書いてみましよう
B - 5	しないようにしていること	しないようにしていることを挙げてみましよう
B - 6	うまくかかわれた場面	うまくかかわれた場面を思い出してみましよう
B - 7	自分の努力を認める	自分の努力を自分で認めてみましよう
B - 8	浮かんでくる気持ち	その子について浮かんでくる気持ちを書き出してみましよう
B - 9	誰がどのように	誰が、どのようにやっていたらよいか考えてみましよう
B - 10	どのような場面で	どのような場面で、どのようにかかわっていけるか考えてみましよう
B - 11	指導や面談をする前に	指導や面談をする前に考えや気持ちを整理してみましよう
C - 1	大切にしてもらったこと	大切にしてもらったことを思い出してみましよう
C - 2	よいかかわりができた経験	よいかかわりができた経験を思い出してみましよう
C - 3	教員としての自分	教員としての自分を振り返ってみましよう
C - 4	うれしかった言葉	言ってもらってうれしかった言葉を思い出してみましよう